

一般社団法人墨田区観光協会について

1 墨田区観光協会の組織改革

(1) 改革の視点(令和3年3月時)

- 地域で起きているコトの掘り起こしと支援
- 地域のネットワークの強化と調整
- 「地域の日常」を生かした着地型観光の推進

(2) 組織目標の再認識

墨田区における観光事業の振興を図り、もって地域産業経済の発展及び区民生活の向上に寄与する。

【地域産業経済の発展】

ものづくりの集積といったすみだならではの地域資源を観光として有効に活用することで、持続可能な地域の経済活動を支援する。

【区民生活の向上】

地域の人や団体の点と点をつなぎ、線から面へと結ぶことで、地域一体となった観光を通じたまちづくりに貢献し、地域への誇りを醸成する。

(3) 目指す姿：地域活性化をけん引するコーディネーター

地域の事業者や団体等による主体的な活動について、その運営やプロモーションを支援するとともに、多様な団体・事業者の連携を促し、

「地域に根差す持続可能な観光まちづくり」を進める。

(4) 収支構造の改革と組織体制の改編

- 事業の縮小均衡の維持
観光需要回復の見通しが不透明であることから、当面は新たな物販拠点は設けず、Webの活用強化や機動的な観光案内を検討し、固定的なコストを削減する。
- 組織体制の改編による業務効率化
自律型組織への移行、内部統制の強化を図るため、グループ制に改編し、職員間の横連携を促進するほか、職務権限を明確にして効率的な業務執行を図る。
- 組織人員の適正化
まち処の廃止を踏まえた今後の事業規模を勘案して、更なる人員の適正化を図る。

(5) 区との連携で重点化していく取組

- プロモーションの展開
 - 観光関連のあらゆる地域情報のプラットフォームとして、情報を集約し発信する。
 - プロモーションの効果を高めるため、行政領域を超え、広域的に事業者・団体と連携していく。

➤ 民間事業者・団体等の活動支援や連携促進

- 区内で起きている個別の取組を面としてつなぎ、魅力の向上や消費活性化などの相乗効果を生み出していく。

➤ シビックプライドの醸成

- 地域では当たり前の「地域の日常」を観光視点として捉え直し、地域資源に対する区民の気づきを醸成する。
- 地域のホスピタリティを上げ、区民が主体となった情報発信を促進する。

2 区の観光振興の方向性

(仮称)産業観光マスタープランの策定作業の中で、観光分野について、以下の視点を踏まえた検討を進めている。

(1) 現状の課題

- スカイツリー開業やオリパラ開催などの観光特需は今後当面見込めない。
- 地域の魅力が区民に十分に伝わっておらず、地域を巻き込んだ展開ができていない。
- 「観光消費」による効果という観点に観光施策の評価が偏っていた。

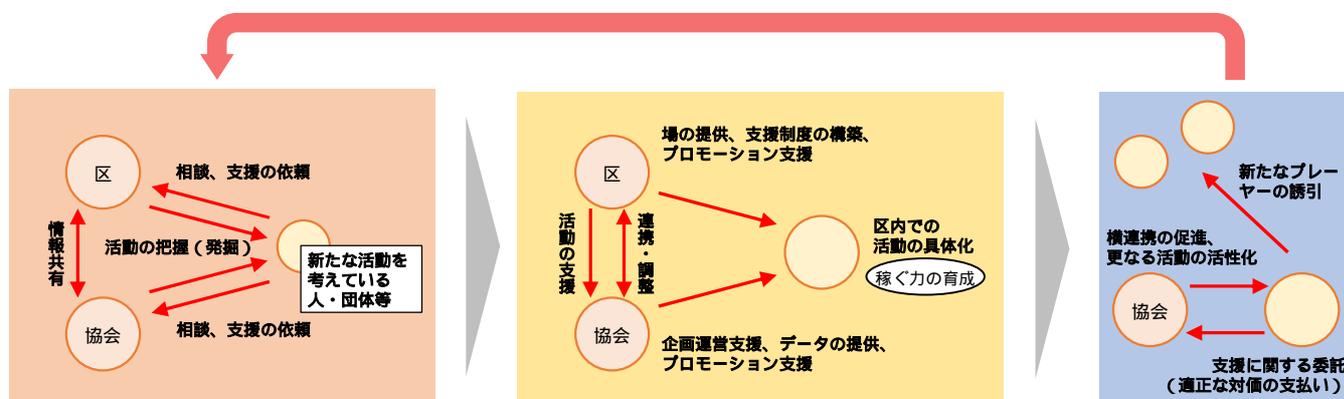
(2) 方向性

- 持続可能な観光を目指すために
短期的には、「交流」に重点を置き、土壌を整える
中期的には、その果実としての事業誘発と地域消費を促す
長期的には、地域の価値を地域が認識し、シビックプライドを醸成
- 産業と観光の融合の視点
地域を巡りお土産を買う、観光消費 関係人口の増大～交流による事業誘発
- SDGsの視点
観光事業により得た利益の一部を地域の活性化に費やす
観光事業により得た直接利益が地域活性化に結びついている

(3) 今後の取組(戦略)

- 一過性ではないリピーターの獲得に向けた、ターゲットの重点化
➤ 経済活動につながる交流機会の創出(MICE)の強化等
- まちの魅力を自分ゴト化する
➤ 地域と連携する観光プロモーション
➤ SNSの活用等による区民参画型のプロモーション展開
➤ 地域の日常を観光資源化させる
- 事業者、団体等の民間活動を活性化するための基盤整備
➤ 観光資源のデータベース化や公共空間の活用促進

(4) 区と協会の連携により目指す取組のイメージ



3 当面の支援についての考え方

観光協会は、ポストコロナを見据え、組織を改編し、地域をつなぎ、地域を後押ししていく公益的な取組を重点化していく方針を示している。

この方針は、区が検討している今後の観光振興の考え方とも方向性を一にしているものである。

このため、以下の点を踏まえ、観光協会の組織改革を実現し、公益的な活動を推進していくため、**当面の間において、管理運営に係る費用を支援していく。**

観光協会の収支構造が変化する。(すみだまち処の廃止)

新型コロナウイルスの影響により観光需要が戻るまでに時間を要する。

持続可能な観光施策を訴求していくため、地域に「稼げる力」が培われるまでの基盤づくりは公益的な性格が強い。

産業観光プラザ すみだまち処の廃止に伴う負担について

契約期間は令和4年5月末までだが、原状回復等の期間を勘案し、本年度末をもってまち処の営業を終了することとし、事業終了に伴う諸条件について今後調整していく。

なお、事業終了に伴い観光協会に生じる費用を精査中であり、区の責任分担に基づく負担の予算化を別途検討する。

現状（参考）

【観光案内所の来所者数及び売上、主要観光施設入込客数の状況】

まち処

令和2年度：4/4～5/31 休業 令和3年度：4/25～5/31 休業 及び 6/1～6/20 の土日休業

	【来所者数】 (単位：人)					【売上】 (単位：円)				
	4月	5月	6月	7月	8月	4月	5月	6月	7月	8月
令和元年度	24,827	30,410	29,685	38,655	52,310	11,498,596	12,429,712	10,171,113	12,437,855	13,330,272
令和2年度	682	0	17,113	18,748	38,108	168,111	0	7,539,773	7,059,579	9,623,418
令和3年度	14,863	0	11,735	20,452	17,381	4,347,929	0	5,505,248	8,250,485	5,127,006

両国観光案内所

令和2年度：4/4～6/4 休業 令和3年度：4/25～5/31 休業

	【来所者数】 (単位：人)					【売上】 (単位：円)				
	4月	5月	6月	7月	8月	4月	5月	6月	7月	8月
令和元年度	2,651	3,572	2,085	2,221	2,347	6,454,798	11,107,038	4,458,212	3,513,939	5,814,869
令和2年度	23	0	481	439	527	101,087	0	1,408,583	2,680,077	2,212,293
令和3年度	487	0	587	698	406	2,125,305	0	1,804,735	1,768,074	1,518,202

主要観光施設入込客数

	(単位：人)					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (a)	令和2年度 (b)	(b) - (a)
両国国技館 (1)	450,000	450,000	450,000	450,000	1,020,000	570,000
江戸東京博物館	1,590,577	716,924	908,868	839,133	406,313	- 432,820
向島百花園	121,213	119,000	115,643	110,156	41,000	- 69,156
トリフォニーホール	236,362	238,182	230,901	215,934	48,287	- 167,647
すみだ北斎美術館 (2)	177,707	262,634	177,188	157,034	45,070	- 111,964
花火資料館	5,512	6,911	5,885	5,202	3,933	- 1,269
郷土文化資料館	13,671	14,155	14,270	11,966	6,365	- 5,601
東武博物館	127,022	130,777	129,289	115,249	46,454	- 68,795
相撲博物館 (1)	74,044	83,482	72,461	87,982	14,068	- 73,914
小さな博物館	36,313	38,623	39,305	35,852	9,800	- 26,052
本所防災館	111,916	111,000	111,866	105,869	25,620	- 80,249
シアター	33,126	25,972	27,994	27,149	11,785	- 15,364
東京スカイツリー	4,490,000	4,440,000	4,270,000	3,600,000	780,000	- 2,820,000

1 1/1～12/31 のデータ

2 平成28年11月22日開業

【観光協会 収入の推移】

(単位：千円)

